

週刊さきがけス。ボリッ

vol.
588

おおの・きよと 2004年8月
31
31、羽後町生まれ。三輪小5年で
陸上競技を始め、羽後中3年時に8
00㍍で全国大会出場。秋田工高3
年時にインターハイの800㍍と1
500㍍、国体少年共通800㍍で
3冠。順大では1年時に1500㍍

で日本学生個人選手権3位、関東個人選手権4位。3年になつた今 年は日本学生個人選手権2位、関東インカレ2位、日本インカレ4位。休日は常に 出かける行動派で昨年は千葉県の守谷海岸で素潜りした。168センチ。

大学でも才能を開花し始めた大野。世界ユニバーシティー夏季大会に挑む=千葉県印西市の順天堂大きくらキャンパス陸上競技場

世界ユニバ 陸上1500メー トル

(秋田工高順大3年)

A large, stylized graphic of the Chinese characters '人民' (Renmin - People). The characters are rendered in a bold, blocky font with thick outlines. The top character '人' is blue, and the bottom character '民' is red. Both characters feature white internal structures. The entire graphic is set against a dark green background.

念願だつた世界のスタートライ
ンに立つ。陸上男子中長距離の大
野聖登(20)は順天堂大3年、秋田
工高出(21)が21~27日にドイツで開
かれる世界ユニバーシティー夏季
大会の1500メートルに出場する。学
生の世界ナンバーワンを競う舞
台。自身初の国際大会に「わくわ
くしている。終盤のスピードを生
かして、いい結果に結びつけたい」
と意気込む。

大学では1500mを主戦場とする。入学後すぐの日本学生個人選手権で3位、関東学生対校選手権（関東インカレ）は4位とデビューは上々だった。しかし、好成績の根拠や理由も分からぬまま、すぐ壁にぶつかった。7月下旬からの合宿では駅伝に向けて毎日40キロの走り込み。今まで経験したことのない長距離練習についていけなかつた。自らの裁量で練習メニューを考えることもあつた高校時代。大学では長門俊介監督（41）が立てたメニューをきつちり遂行していくスタイルで高校との

周囲を信じ前向きに
転機が訪れたのは2年の時。
全国都道府県対抗男子駅伝に本
県チームの一員として出場し、
高橋監督や秋田陸協のコーチら
と顔を合わせた。秋田からの応
援を肌で感じ、「期待に応えな
いといけない」と思い直した。
練習方針への疑問からぶつか
り合つたこともある長門監督と

結果につながつた」と話す。日本の学生長距離界は駅伝が人気。大野自身も元々は大学駅伝に強い憧れがあった。ユニバーシティー大会を前に長門監督は「欧州のトラック種目に対する盛り上がりは日本と全然違う。世界のレベルを肌で感じて、さらに一段階、一段階上げる練習をしたいと思えるようになれば出場した価値がある」と強調。大野は「海外のレースは駆け引きが多く、ペースのアップダウントも激しい。挑戦者として自分の力を出し切りたい」と力を込めた。

順大を選んだのは、OBの三浦龍司(23)＝SUBARU＝の存在が大きい。大学2年時の東京五輪3000m障害で7位に入るなど学生時代から世界を舞台に戦う姿に憧れた。東京箱根間往復大学駅伝（箱根駅伝）で11度の総合優勝を誇るレベルの高さにも引かれた。

析する傾向があり、人が見えないところでは考え込むことが多いという大野。気持ちの浮き沈みが走りにも大きく影響した。落ち込んだ時に救つてくれたのが、当時4年の三浦だった。ドライブの車中や寮の部屋で悩みや不満を聞いてもらつた。

はコミユースケーションを深め、細かな走法についてもアドバイスを受けた。大野は「結果が出ていないので、文句ばかり言つても仕方ない。一回信じてみよう」と思った。監督を信じるようになつてから前向きな気持ちになつた」と振り返る。

はコミユースケーションを深め、細かな走法についてもアドバイスを受けた。大野は「結果が出ていないので、文句ばかり言つても仕方ない。一回信じてみよう」と思った。監督を信じるようになつてから前向きな気持ちになつた」と振り返る。